

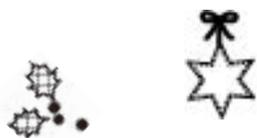
☆☆図書室だより☆☆ ☆第34号☆

☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



書名 (購入書)	著者名・出版社・発行
主イエスは近い クリスマスを迎える黙想と祈り	小泉 健 著 日本キリスト教団出版局 2019/2/10 [茶 198.36 Ko]
十字架への道 受難節の黙想と祈り	小泉 健 著 日本キリスト教団出版局 2019/2/10 [茶 198.36 Ko]
聖母の美	下園知弥 著 西南学院大学博物館 2019/11/1 [茶 196.7 Shi]
時代、地域、教派を越えた、神と結ばれた「聖母の美しい魂」の表現と紹介されています。アドヴェントの鑑賞に。	
コヘレトの言葉を読もう 「生きよ」と呼びかける書	小友 聡 著 日本キリスト教団出版局 2019/3/20 [橙 193.35 Ko]
「若者」と歩む教会の希望 次世代に福音を伝えるために	原 敬子 他 編著 日本キリスト教団出版局 2019/2/25 [赤 190.4 Ha]
暦とキリスト教	土屋吉正 著 オリエンズ宗教研究所 2015/3/20 [茶 196.44 Tsu]
悩めるローマ法王 フランシスコの改革	秦野るり子 著 中公新書ラクレ 2019/10/17 [茶 198.22 Ha]
詩編を読もう 上 嘆きは喜びの朝へ	広田弥弘 著 日本キリスト教団出版局 2019/7/1 [橙 193.33 Hi 1]
詩編を読もう 下 ひとすじの心を	広田弥弘 著 日本キリスト教団出版局 2019/8/27 [橙 193.33 Hi 2]

ご紹介本



古屋治雄 主任牧師

『復讐の詩編をどう読むか』

[橙 193.33 Ze]

E.ツェンガー 著 佐久間勤 訳 日本基督教団出版局

すでに詩編に関する著書が多数図書室に備えられていますが、新たに表記の著書を推薦いたします。著者のE.ツェンガーはカトリック司祭であり、旧約聖書の研究者です。

詩編の中にはとても激しく「敵」に復讐心を燃やしている詩編があり、ともするとこれらの詩編がカトリックで用いる『教会の祈り』から外されてきた経緯があるそうです。

阿佐ヶ谷教会では主日礼拝で『交読詩編』を毎回交読していますが、「敵」への激しい言葉が含まれていると詩編を選ぶとき躊躇することがあります。著者はこのテーマのもとに実際いくつかの詩編を選び、真正面から取り組んでいます。そして「この祈りは、神の前で、つまり『復讐の神』として神に反抗し生命を破壊する暴力そのものの仮面を剥ぎ、かつ、暴力のない生というヴィジョンをしっかりと保つ神の前で歌われるものだ(序言より)」と呼びかけています。

書名 (ご寄贈書)	著者名・出版社・発行年など
主よ、用いてください 召命から献身へ	齋藤友紀雄 他 著 日本キリスト教団出版局 2019/2/10 [茶 195.7 Ka]
一日の苦勞はその日だけで十分です	三浦綾子 著 小学館 2018/7/18 [黒 914.6 Mi]

『よくわかるキリスト教の音楽』



長谷川朝雄 川端純四郎 今橋 朗 編 キリスト新聞社

「よく学び、よく歌い、よく祈り、よく捧げなさい」とよく勧められます。クリスチャンの生活に歌うことは欠かせません。賛美歌は私たちの「生活の中の信仰の歌」なのです。ところが明治政府は、キリスト教を抜いて音楽だけを取り入れようとした。今、唱歌の中で私たちが歌ったことがあるものは賛美歌である場合がよくあります。学校教育に賛美歌のメロディーをなんとか取り入れようとした先人の努力を本書の中に垣間見ることができます。このほか結婚式、ご葬儀の音楽についての興味深い対談なども載っています。各章のとびら裏のコラムも「秀吉の聴いた西洋音楽」とか「リードオルガン」、クリスマス・オラトリオやメサイアなどに代表される「オラトリオ」とは何か、にも触れています。本書からキリスト教音楽史に目を向けてみましょう。手軽に手に取れるサイズ、ページ数です。どこからでも読めますのでぜひ手にとってみてください。(NOR!)

『ルカのクリスマスケーキ』

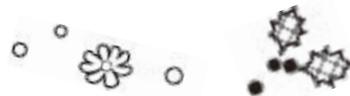


[黒 726.6 Bo]

フランチェスカ・ボスカ 作 ジュリアーノ・フェッリ 絵 いずみちほこ 訳 いのちのことは

クリスマスと聞いて思い浮かぶのはなんでしょうか。キラキラ輝くクリスマスツリー？それともサンタさんから届くクリスマスプレゼント？どれもこれも、思い浮かべるだけでワクワクしますね。でも、クリスマスといえればやっぱりクリスマスケーキ！今回オススメする本は「ルカのクリスマスケーキ」です。主人公の名前はルカ。サン・ピターレ村でお父さんのケーキ屋さんを手伝う元気な男の子。この村ではみんながルカたちの作ったクリスマスケーキを毎年楽しみにしています。今年もケーキを作り終えて村中の家の前に置いたルカとお父さん。しかしクリスマスの朝、ケーキはみんなの家の前から消えていました。悲しむ村の人々。そんな中、ルカは雪の上に大きな足跡を発見！その足跡をたどっていくと・・・？ ルカは無事にケーキを見つけることができるのでしょうか？ (共励会 K.I)

『花と典礼（祭儀における生け花）』



ジャンヌ・エマール 著 白浜 満 監訳 井上信一 訳 オリエンズ宗教研究所 [茶198.26 Em]

出版に日本カトリック司教の推薦言葉、まえがきにパリ大司教が生け花について語られた話が記されています。花材の選び、花器にも配慮がなされ、丁寧な解説が付され、生け花の教科書の様になっています。

キリスト教暦の待降節、降誕祭：(1)夜に輝く光。ひとり男の子がわたしたちに与えられた(イザヤ9・5)。主の栄光が周りを照した(ルカ2・9)など聖句が随所に記されています。(2)エッセイの株。二種類の違う生け花に。復活祭：(1)水と聖霊で生まれ変わる。(2)キリストは光である。(3)闇を打ち砕くキリスト。(4)アレルヤ！「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」(ルカ24・5-6) 四種の違う花に。

草花の美しさの中に創造された神の存在、現在も生きておられ、キリストの愛と働きを示すことに改めて教えられました。聖書の中の草木についてもご一読をお勧めします。アカシア、アーモンドの木、レバノン杉、亜麻など。(N.K.)